

---

# Fate/guilty gear

戯言遣い

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Fate/guilty gear

### 【Zコード】

N5118Y

### 【作者名】

戯言遣い

### 【あらすじ】

正義の味方は死んだ。しかし世界の意思か人の願いか、彼はのちの時代で聖戦と呼ばれるようになる人と、人ならざるものとの戦いが起こっている世界で目を覚ました。彼は剣を取る。人々の笑顔を守るために・・・

## 1・未来相克

I am bone of my sword. 体は剣で出来て  
いる。

じいさんから借り受けたその思いは、一つの剣となつた。

Steel is my body, and fire is my  
blood 血潮は鉄で、心は硝子。

脆く、されど曲らない。曲げられない思い。

I have created over a thousand  
blades. 幾たびの戦場を越えて不敗。

俺は全てを救おうとした。しかし救えなかつた時もあつ  
た。

Unknown to Death. ただ一度の敗走もなく、

何時しか妥協し始めた。

Nor known to Life. ただ一度の理解もされな  
い。

それでも諦めなかつた。

Have with stood pain to create  
many weapons . 彼の者は常に独り 剣の丘で勝利に  
酔う。

救えた人の笑顔を忘れなかつた。それだけで十分だつた。

Yet , those hands will never hold anything . 故に、生涯に意味はなく。

その笑顔が唯一、俺の救いとなつた。

So as I pray , unlimited blade  
works . その体は、一本の剣で出来ていた。

それだけが、俺を駆り立てた。

俺が立つ場所は

いつか見た景色であり

その赤に染まつた剣の丘は

ヒミツヤの終着点

そう、終わる。

「やはり君か・・・遠坂」

俺は静かに振り返る。

そこにはかつての魔術の師である、遠坂凜が立っていた。

「ええ、久しぶりね・・・士朗」

「ああ、久しぶり」

なぜここに遠坂がいるか、なんて馬鹿げたことは聞わない。

「俺を、殺しにきたのか・・・」

「ええ、そうよ」

かつては師で、今は敵・・・いや、狩人か

「進み具合はどうだ。少しば、近づいたか？」

それでも俺は微笑みながら、そう問い合わせる。

「そうね・・・それなりに上手くいってるわ

遠坂も微笑み、答えた。

「土朗、あなたはどうなの？」

「そうだな・・・救えなかつた時もあつたし、救えたときもあつた。

」

遠坂の問いに、少し考えて答えた。

「そう・・・」

「でも、あいつとは違つ。」

俺はエミヤとは違つ。

救えなかつた命を嘆くより、救えた命に喜びがあつたから

「俺は、救えたよ。」

故に、迷いはなかつた。

契約も結ぶことなく、俺は終える。

「よかつた・・・」と凛は肩を降りし、そしてゆっくりと俺に近づく。

そして・・・

「ん・・・」

俺の唇を・・・そして手にもつたアゾット剣で心臓を刺し、俺の命を奪う。

「愛してゐる・・・士朗」

「俺もだ・・・り・・・ん・・・」

意識が霞みがかつてくる・・・

しかし、恐怖はない。

穏かな気持ちで「これでいいのだと……」そう思い、静かに眼を閉じた。

体の感覚が戻ってくる。

何がおこっているのかと眼をあけると、そこはあの剣の丘だった。ただし、俺が殺される時にいた丘ではない。

乾いた風が吹き、空は赤に染まつた雲に覆われ、見覚えのある巨大な歯車が回り、大地には聖剣や魔剣といった様々な剣がまるで墓標のように刺さっている。

そうここは・・・無限の剣製ヒミツヤの世界

裏切りと哀しみに彩られた、あいつの選んだ寂しい俯瞰風景

「ほう、誰かと思えば。遂に死んだか。衛富士朗」

「アーチャー……」

褐色の肌に白い髪、俺と瓜一つ……いや、まるで鏡の向ひの血  
分のようないわゆる存在  
別の未来の俺が立っていた。

最後に見たときと変わらず、自信に満ちた笑みを浮かべていた。

「だが、どうやら違うようだ。」

「ああ、違う。お前とは違う。」

そして「クッ」とエリヤが口を嘲笑し、俺は「フンッ」と鼻で笑つた。

「結局私とお前の違いは、見たものの違いといつ事か。」

「そうだ、お前は死者を見て、俺は生者を見た。とても簡単な答えだ。」

「ああ、私はその簡単な答えに気付かなかつた愚か者といつ訳だ。」

あこつせわつ血つと、背を向けた。

「もつ会つ事もないだろ。お前は英雄ではなく、ただの衛富士朗

として死んだのだから

「ではな」と、彼は去った。

そして世界は鱗割れ、姿を変える。

大地は変らず赤に染まり、様々な剣が刺さっている。  
しかし空は青く、雲は白く、水気を含んだ湿った風が吹く。

これが俺の俯瞰風景

無限の剣製

人々の笑みを糧とした、たつた一つの全て。

やがてその世界も鱗割れ、崩れ、そして闇に沈んだ。

気が付くと俺は、荒野の真ん中に立っていた。

「・・・なんですか」

## 1・未来相克（後書き）

大体3～5話で終わらせるつもり

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5118y/>

---

Fate/guilty gear

2011年11月17日20時54分発行